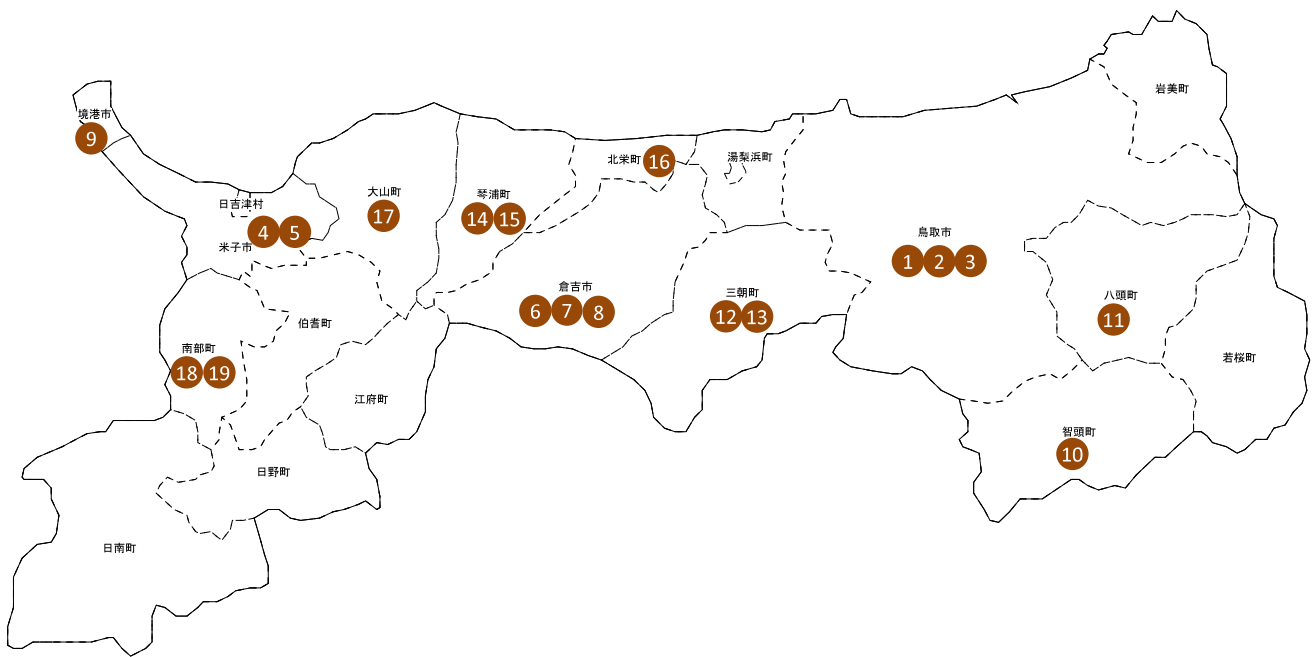


「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第8回選定) 応募地区(者) 一覧 (鳥取県)

No.	選定地区	部門	市町村	地区名/氏名	該当する取り組み		
①		ビジネス	鳥取市	一般社団法人 五しの里さじ地域協議会	農泊	農村文化体験	移住・定住
②		ビジネス	鳥取市	株式会社アクシス	地産地消	食育・教育	SDGs
③		コミュニティ	鳥取市	鳥取大学 学生農業団体 旬むすび	企業との連携	食育・教育	学生・若者の活躍
④		コミュニティ	米子市	株式会社シルクファーム	スマート 農林水産業	耕作放棄地対策	農福連携
⑤		コミュニティ	米子市	株式会社大山こむぎプロジェクト	6次産業化	地産地消	耕作放棄地対策
⑥		コミュニティ	倉吉市	JA鳥取中央 あぐりキッズスクール	伝統の継承	教育機関との連携	食育・教育
⑦		コミュニティ	倉吉市	鳥取県立倉吉農業高等学校 食品クラブ	ジビエ	食育・教育	学生・若者の活躍
⑧	奨励賞	コミュニティ	倉吉市	鳥取県立倉吉農業高等学校 野菜クラブ	農林漁業	耕作放棄地対策	学生・若者の活躍
⑨		コミュニティ	境港市	特定非営利活動法人 未来守りネットワーク	企業との連携	環境保全・ 景観保全	食育・教育
⑩		コミュニティ	智頭町	特定非営利活動法人 智頭の森こそだち舎	移住・定住	環境保全・ 景観保全	食育・教育
⑪		コミュニティ	八頭町	ふなおか共生の里づくり推進協議会	農林漁業	企業との連携	環境保全・ 景観保全
⑫		コミュニティ	三朝町	田舎応援戦隊 三徳レンジャー	6次産業化	学生・若者の活躍	—
⑬	奨励賞	コミュニティ	三朝町	特定非営利活動法人 里山地域研究会	耕作放棄地対策	環境保全・ 景観保全	教育機関との連携
⑭		ビジネス	琴浦町	株式会社チュウブ	農福連携	地域貢献 (校庭の芝生化)	耕作放棄地対策
⑮		ビジネス	琴浦町	大山乳業農業協同組合	企業との連携	食育・教育	教育機関との連携
⑯		ビジネス	北栄町ほか	とりそらたかくブランド事業	企業との連携	高齢者の活躍	女性の活躍
⑰		ビジネス	大山町	株式会社D'sプランニング	農林漁業	企業との連携	学生・若者の活躍
⑱		ビジネス	南部町	ジェラテリア pa cherry b.	農林漁業	食育・教育	女性の活躍
⑲		コミュニティ	南部町	地域共生社会実現拠点施設 いくらの郷	耕作放棄地対策	環境保全・ 景観保全	農福連携

応募地区（者）位置図（鳥取県）



1

とっとり
鳥取県鳥取市

農泊

農村文化体験

移住・定住

いっばんしゃだんほうじん ご さと ちいききょうざかい
一般社団法人 五しの里さじ地域協議会

～五しの里みんなやっちゃえ！～



魚のつかみ取り体験



響け！佐治谷ばなし

経緯

- 過疎化により、佐治町の豊かな自然、伝統、文化がなくなるという危機感から、梨、星、石、和紙、佐治谷ばなしの五つの「し」と、田舎暮らしを最大限に活用した民泊体験及び滞在型観光で、佐治町に訪れる人を増やし、元気なふるさと佐治町の復活を目指し、協議会を発足。
- 五つの「し」の産業に携わる有志が結束し、民泊体験など、佐治町ならではの資源を活用した地域活性化の取組。

取組内容

- 平成21年から、小学校及び一般の民泊体験の受け入れを実施。民泊以外にも、和紙の紙すき体験、梨の収穫体験、プラネタリウム体験、林業体験など、多数の体験プログラムを用意し、参加者は希望する体験が自由に選択可能。
- 平成27年度から空き家管理業務、さらに平成28年度からはお試し住宅管理業務を鳥取市より受託し、佐治町における移住、定住促進にも取り組む。

活動の効果

- 民泊体験の取り組みを始めた平成21年度は164名であった民泊受入人数が、平成30年度には1,740人と10倍以上に増加（平成30年度までに合計9,214人を受け入れ）。
- 平成30年度からは、大阪など関西圏からの中学校修学旅行の受け入れを開始、初年度は330人の受け入れを行った。
- 民泊体験の参加者からは、「また別の体験をしてみたい！」、「もっと泊まりたい」という感想や、民泊した家庭と年賀状のやり取りなど、民泊を通じた新たな繋がりができている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、コロナ後を見据えたインバウンドを含めた受け入れ体制の強化、SNSを最大限に活用した情報発信、地域資源をさらに活かした体験プログラムの開発や販売、旅行会社や学校関係機関に対する積極的なプロモーション・営業活動等を行います。

鳥取市佐治町加茂1547 Tel: 0858-89-1780 <http://saji-5shijp/family> goshinosato@yahoo.co.jp

かぶしがいしゃ
株式会社アクシス

～野菜がつなぐ人と人～



鳥取空港での販売。最多で65品出品。



お子様も買い物してくれます

経緯

- IT企業であるAxisは、以前から「こども食堂」の活動を支援しており、その中で子ども食堂での食材不足、県内のフードロスが課題になっていることを知った。
- 2つの課題を解決することを目的として、2020年10月に「Axisのやさい」を開始。

取組内容

- 「Axisのやさい」は、規格外・余剰野菜を生産者から仕入れ、消費者に販売する他、その一部をこども食堂に寄付。
- 現在は、23軒の生産者に協力いただき、延べ314種類の商品を出品。生産者と当社社員、高校生、大学生によるボランティア参加により運営している。

活動の効果

- 農家の皆様には育てた野菜を販売する場として、地域の皆様には地元の味を知る場として応援いただくこと、さらにはこども達が地域の食材でより豊かに育つふるさと・鳥取の実現への貢献を目指している。
- 毎回ボランティアに参加いただいている生産者の方、高校生、大学生には、お客様と積極的にコミュニケーションをとっていただき、リピーターが増えるなど、地域の繋がりが広がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

「Axisのやさい」を通して、芽生え始めた繋がりの輪を広げていくことで、フードロス削減やこども食堂の継続支援に取組み、世界と共に未来に向けてSDGsの実現に貢献してまいります。

とっとりだいがく がくせいのうぎょうだんたい しゅん
鳥取大学 学生農業団体 旬むすび

～旬の野菜を食卓に結ぶ～



子供たちとの農業体験イベント



圃場で作業中の旬むすびメンバー

経緯

- 旬むすびは、以前に地域活動を行っていたある学生が、交流のあった農家さんへの恩返しに、期間限定で取り組んだ八百屋が始まりである。
- 現在は、八百屋時代のコンセプトや想いはそのままに、野菜の栽培やイベントを開催しながら旬を結ぶ活動を行っている。

取組内容

- 「旬の野菜を食卓に結ぶ」を合い言葉に、自らが生産した旬の野菜を様々なイベントを通して食卓へ届けている。
- ママさんコミュニティとの農業体験イベントやラーメン屋さんコラボした商品開発、パン屋さんとの調理イベントなど、新たな年代や様々なジャンルの方々と旬を結んでいる。

活動の効果

- 農業体験イベントに参加した子供たちが、旬むすびメンバーと一緒に播種・定植・収穫・調理体験をすることで食と自然、環境に対して興味を持つようになり、また、参加した子供たちの多くが、苦手だった野菜を食べられるようになった。
- 旬むすびメンバーが自ら生産した野菜の直売を行い、地域の方との交流や広報活動を行っているほか、地元IT企業が主催する規格外野菜の販売活動にもボランティアとして参加し、農産物の流通や課題について学習している。

応募団体からのアピール・メッセージ

「旬の野菜を食卓に結ぶ」というコンセプトを深掘りし、「旬の良さ」や「結ぶ先」についての視野を広げていきたいと考えている。特に、今まで目を向けていなかった年齢層の方に旬を伝えるにはどうすればいいのか、学生ならではの発想力を活かしたい。

かぶしがいいしや
株式会社シルクファーム

～農福連携で農業を活性化しよう！～



(車いすでも移動が可能なハウス内)



(ミニトマトの選果風景)

経緯

- 耕作放棄地の再生と周辺地域の活性化、雇用拡大を目指し活動開始。
- 「ユニバーサル就労」を理念に、農業と福祉が連携して耕作放棄地を再生し、障がい者も働きやすい環境を創出する。

取組内容

- 主に米子市内の耕作放棄地約40haを活用し、いちご観光農園のほかミニトマト、さつまいもを生産し、販売及び輸出を行う。
- 障がい者の就労環境(安全性、効率性等)を整えるため、2019年に(株)クボタの協力を得て、スマート農業システムを導入。
- ミニトマト栽培には、(株)クボタの最新スマートシステム「ANSポット栽培」を導入。

活動の効果

- 連携するNPO福祉法人の利用者(延べ2000人以上)が、シルクファームの農場で農産物の生産、選果、パック詰めなど、福祉施設外での農業就労を実施。
- 令和3年1月には「ノウフクアワード2020」で優秀賞を受賞。
- 「いちご観光農園」、「ミニトマト園」、「さつまいも圃場」及び関連施設を整備し、新たな地域特産物を作り、地域雇用(高齢者、障がい者を含む7人)を創出し、地域活性化に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

福祉と連携し、ミニトマトの栽培、収穫、出荷といった一連の作業をシステムを作り、ミニトマトの「ノウフクJAS」認定を目指す。


 かぶしがいしゃ だいせん
株式会社大山こむぎプロジェクト

～地域にとってなくてはならない地域商社に～

2, 生産農家の顔の見える化

国内小麦の中でも先進的な取り組みをしています



小回りがきくことを逆手にとり、通常の製粉と異なり生産者指定とすることで生産者の名前が入った商品展開をおこなっている。

 ↓
 生産者さんの生産意欲の向上と繋がる

よりひろげた圃場に、ワークショップ等を定期開催し、小麦の生産にかかわることのできたの圃場おたしの小麦となるように取り組みを進めていきたい



生産農家の見える化 ※生産者名の小麦粉は国内唯一

創る会(利用者)と生産者の懇親会 ～食べる会～

経緯

- 2010年、パン職人の熱い思いに端を発し、酪農家が自家堆肥で肥やした圃場で小麦の生産を開始。
- 農家や食の担い手が地域に根ざして連携し、「大山こむぎ」が誕生。
- 2010年にプロジェクトをスタートし、2018年に株式会社へ法人化。

取組内容

- 大山こむぎを地元中心にパン屋さんや飲食店をはじめ、学校給食用にも供給。
- 生産者の顔(名前)の見える商品展開を行い、生産農家の生産意欲の向上。
- 生産、製粉、流通と連携する鳥取県産小麦の地域商社。

活動の効果

- 生産者が増え、現在鳥取県(中部～西部圏域)で8農家が45ha(耕作放棄地活用20ha)で生産し、耕作放棄地対策に貢献。
- プロジェクトにより、2017年にミナミノカオリ、銀河のちから、2019年にチクゴイズミが県の産地品種銘柄に登録。
- 学校給食を始め大山こむぎの消費が拡大し、収穫量が2012年19トンから2021年233トンに増加。

応募団体からのアピール・メッセージ

より永く持続可能なプロジェクトへと成長をさせていきたいと思えます。
 より多くの方に安心な原料をお届けし、“美味しい”と喜ぶ笑顔のループが回っていく取り組みになるよう、関係者の想いを一つにして精進していきます。

とっとりちゅうおう

JA鳥取中央 あぐりキッズスクール

～未来の宝である子どもたちに農業体験をとおり農・食・命の大切さを～



手植え体験に励む親子



農高生指導の下親子で学ぶ

経緯

- JA鳥取中央管内は、大山山嶺に広がる倉吉平野や東郷湖をはじめ、里山、砂丘地、丘陵地とさまざまな自然環境に恵まれている。
- この優れた自然環境を活かした農業・食文化等を未来の宝である子どもたちに農業体験をとおり『農業の大切さ』『食べることの大切さ』『命の大切さ』を伝えるため活動を始めた。

取組内容

- あぐりキッズスクールは、全国的に子どもへの農業体験の取組みが浸透していない平成16年から先駆的に活動を開始。
- 地元農家や青年部、倉吉農業高校の生徒との積極的な連携により次世代間交流として子どもの良き学び舎となった
- 本年度は、コロナ禍によりカリキュラムを縮小。コロナ禍でもできること、伝えること、学ぶことを考え野外での学び舎として実施。

活動の効果

- 体験学習をとおり、親子の絆を深めることができた。
- 倉吉農業高校の生徒は、子どもを指導することにより、勉強したことを伝えることができた。
- あぐりキッズスクールを受講した子どもが、JA鳥取中央に採用された。

応募団体からのアピール・メッセージ

基幹産業である農業の魅力を今後も伝えて行くとともに、教育機関や他産業との連携を深め新規カリキュラムに取り組む。

とっとりけんりつ

くらよしのうぎょうこうとうがっこう

しょくひん

鳥取県立倉吉農業高等学校 食品クラブ

～地域の厄介者を地域の特産品に～



イノシシ肉製品勢揃い



平井知事、猟友会のみなさんとともに

経緯

- 県内有数の農業地帯である鳥取県中部で、害獣による被害が大きな問題となっている。
- 特にイノシシの被害は深刻で、猟友会が駆除し埋却処分していることを知り、「地域の厄介者を地域の特産品に!」を合言葉にジビエとして活かすための活動を開始した。

取組内容

- 食品科3年生の「課題研究」として、
- イノシシ肉のウイナーソーセージ、カレーパンを商品化、校内外イベントで販売した。
- 地域の食堂の協力のもとで「いのこつ(猪骨)ラーメン」を販売。お世話になった方を招き、新作発表会を行った。
- 時間と場所を問わず食べられるよう近隣の食品加工会社の協力を得て「レトルトイノシシカレー」を商品化した。

活動の効果

- これまで処分されていたイノシシの肉を商品化し活かすことを通じて、地域住民はもとより、猟友会、食堂、パン屋さんなどと繋がりが生まれた。
- コロナ前に開催された「鳥取 中部発 食のみやこ」イベントでは、平井伸治鳥取県知事からも、本校の取組みを応援していただいた。地域、産業界、行政など、多くの支援を受けながら活動を推進している。

応募団体からのアピール・メッセージ

2年前にすでに完成した「いのこつ(猪骨)ラーメン」のアップデートとパッケージ商品化、肉だけでなく、イノシシの皮を活用した皮革製品の商品化を目指す。

奨励賞

とっとりけんりつ くらしのうぎょうこうとうがっこう やさい
鳥取県立倉吉農業高等学校 野菜クラブ

～TOTTORI パパイヤ普及作戦～



地域のパパイヤ生産者のみなさんと共に



地域の人と一緒に収穫

経緯

- 高校での学習を通じ、鳥取県で農業の高齢化が進み、耕作放棄地が増加している現状を知る。
- 耕作放棄に歯止めをかけるため「省力的栽培」「収益性の高い作物」として「青パパイヤ」に着目。栽培・利用方法を研究、その有利性について学んだノウハウを地域へ普及する目的で研究を開始。

取組内容

- 平成30年に鳥取県でもパパイヤの栽培が可能であることを実証。現在は、農家への普及について取組みをすすめている。
- 種子を購入し、育苗方法の確立と苗の供給に取組んだ。今年度は、1200本の苗の生産に成功、県内各地へ栽培の輪が広がる。
- 果実のみでなく、健康茶メーカーとの連携で葉を加工し、リーフティーを試作。
- 地域への苗供給と栽培普及活動の推進。

活動の効果

- パパイヤが山陰地方で栽培できるかどうか半信半疑ながら栽培に踏み切った結果、県内各地へ取組みが波及、栽培希望者への報告会、育苗研修会の開催、青パパイヤの雌雄転換について他校生徒と共同研究を行うなど、活動に広がり生まれた。
- 果実の食べ方や加工方法を研究、健康に良いとされる成分(パパイン酵素やポリフェノール)を豊富に含むスーパーフードとして鳥取県に定着させ、特産品化を目指す。

応募団体からのアピール・メッセージ

生徒と栽培者のネットワーク作りによる栽培技術の研鑽、6次産業化を視野に入れた利用方法の研究を推進し、本県農業の活性化、耕作放棄地増加に歯止めをかけたい。

とくていひえいりかつどうほうじん

さきも

特定非営利活動法人 未来守りネットワーク

～海－川－山をつなぐ(環境の保護・再生・中山間地域)再生～



アマモ種子 採取・移植活動



海藻米 田植え活動

経緯

- 水質悪化が進行した中海(なかうみ)を再生させる目的で、若手地元企業人が環境保護・教育・地域再生を行うため、平成16年に当法人を設立し活動を始めた。

取組内容

- 中海や宍道湖(しんじこ)で異常繁殖した紅藻類の「オゴノリ」等を刈り取り、海藻肥料として活用(SDGs)。
- 海藻肥料を使用する水田で、子供達が「田植え・稲刈り」に参加。
- 魚類・水生生物が産卵し稚魚や幼生の住みかとなるアマモ場の再生。

活動の効果

- 中海や宍道湖で異常発生している紅藻類「オゴノリ」等を刈り取ることで、水質浄化に寄与している。
- 刈り取った「オゴノリ」等は海藻肥料として利用。境港市では食育の観点から、この肥料で栽培された「海藻米」が学校給食に採用されている。また、「海藻米」を栽培する境港市、日野町、日南町、伯耆町では、各地区の子供達が「田植え・稲刈り」に参加することで食育につながっている。
- 会員・未来守りネットワークチャイルドクラブ・鳥取県西部地区・島根県安来市の小学生が参加し、中海の水質浄化・魚介類の産卵・育成場のための「アマモ類」の種子採取(6月)・移植活動(11月)による環境保全活動を通じて、環境教育につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

SDGsの観点から、宍道湖・中海の水質浄化のために刈り取った海藻を「海藻肥料」とし、国・県・市町村と連携して「海藻肥料」を使った農産物栽培を拡大させたいです。